

株式会社ツカモトコーポレーション

2023年3月期

決算説明資料

2023年5月15日

1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 中期経営計画

連結業績ハイライト： 2023年3月期通期ハイライト

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	前年比較
売上高	15,658	12,879	△ 2,779
営業利益	229	14	△ 214
経常利益	300	136	△ 164
当期純利益	△ 329	65	394

▶ ラルフローレンホームの事業変更

ラルフローレンホームとのライセンス契約が終了し、店頭での販売から、商品を生産する事業へと変更。売上高はマイナスとなったが、経費の節減効果もあり、大幅に収益が改善した。

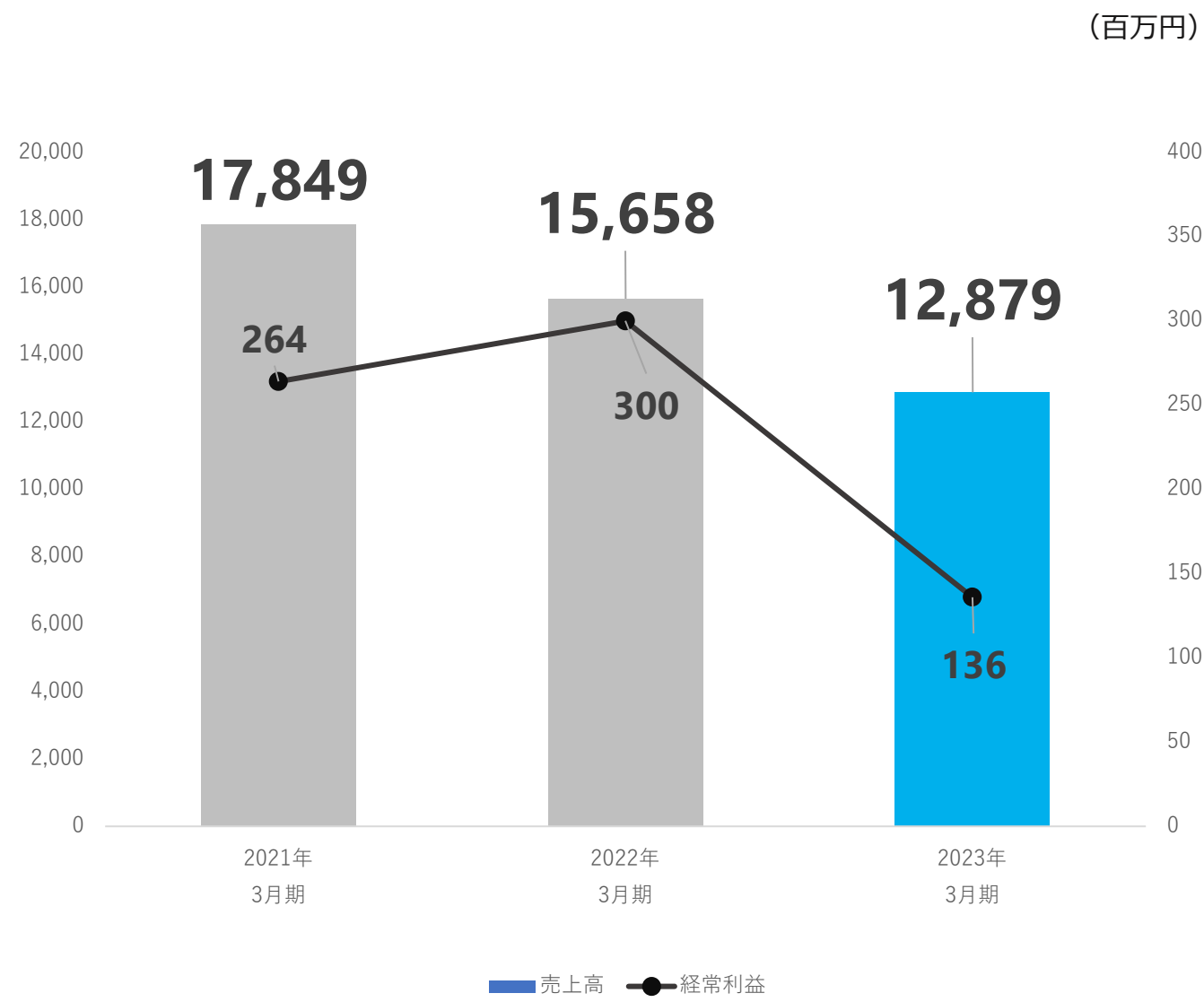
▶ 円安および資源価格の高騰

外国為替相場の急激な円安傾向、原油・原材料価格の高騰などの不安定な世界情勢のなか、主として健康・生活事業、ユニフォーム事業は商品の輸入において大きな影響を受けた。

▶ 健康・生活事業の不振

巣ごもり需要が落ち着いたことによるテレビ等の通信販売が苦戦した。

連結業績ハイライト : 2023年3月期売上高・経常利益の推移



▶ ホームファニシング事業における事業の変更によって売上高は減収となった。

1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 中期経営計画

連結計算書類：連結損益計算書

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	前年比較
売上高	15,658	12,879	△ 2,779
売上総利益	5,276	3,351	△ 1,925
（売上総利益率）	33.7%	26.0%	△ 7.7pt
販売費一般管理費	5,047	3,336	△ 1,710
営業利益	229	14	△ 214
（営業利益率）	1.5%	0.1%	△ 1.4pt
営業外収益	189	253	64
営業外費用	117	131	13
経常利益	300	136	△ 164
（経常利益率）	1.9%	1.1%	△ 0.9pt
特別利益	37	-	△ 37
特別損失	623	51	△ 572
税引前当期純利益	△ 286	85	371
当期純利益	△ 329	65	394

連結計算書類：連結貸借対照表

(百万円)

前連結会計年度末 当連結会計年度末 (22/3/31) (23/3/31)			前連結会計年度末 当連結会計年度末 (22/3/31) (23/3/31)		
資産の部	26,524	25,808	負債の部	14,995	13,907
流動資産	7,378	6,740	流動負債	10,029	9,142
固定資産	19,145	19,067	固定負債	4,965	4,764
有形固定資産	13,106	12,757	純資産の部	11,528	11,900
無形固定資産	73	64	資本金	2,829	2,829
投資その他資産	5,964	6,245	資本剰余金	707	710
			利益剰余金	6,864	6,809
			自己株式	△ 83	△ 60
			その他包括利益累計額	1,209	1,611
資産の部合計	26,524	25,808	負債純資産合計	26,524	25,808

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	45	417
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 124	561
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 453	△ 637
現金及び現金同等物の期首残高	2,349	1,817
現金及び現金同等物の期末残高	1,817	2,159

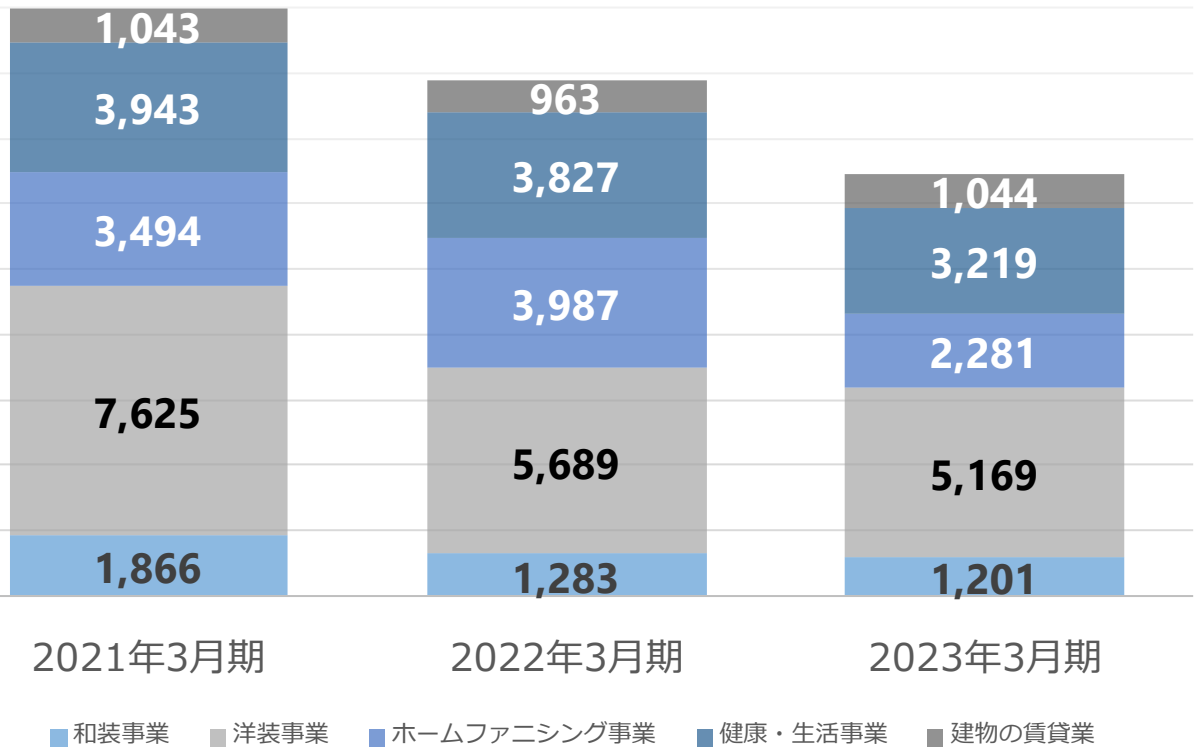
1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 中期経営計画

セグメント実績 : セグメント売上高構成

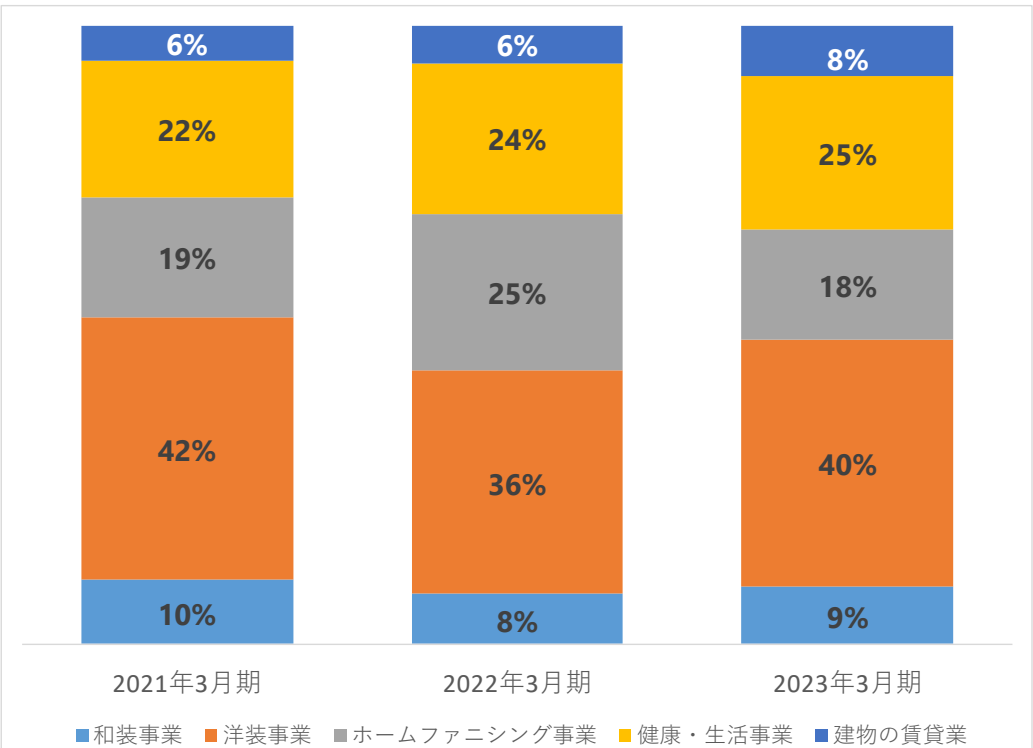
- ▶ ホームファニッシング事業は店頭での販売から商品を供給する事業へと変更となり売上高は減少した。
- ▶ 売上構成比に前年から大きな変化はない。

売上高

(百万円)



売上構成比



セグメント実績：和装事業

▶ 不採算催事からの撤退により減収となったが、利益率の改善と経費の削減が奏功し損益は改善した。

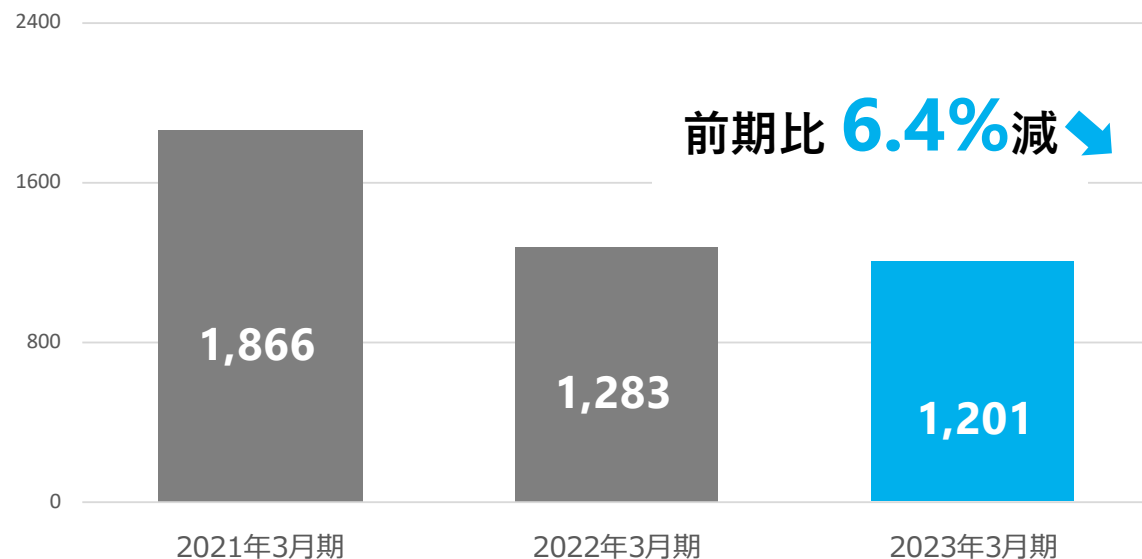
【対処すべき課題】

催事に依存したビジネスモデルからの脱却。

不採算催事、不採算取組得意先からの撤退、縮小の継続。

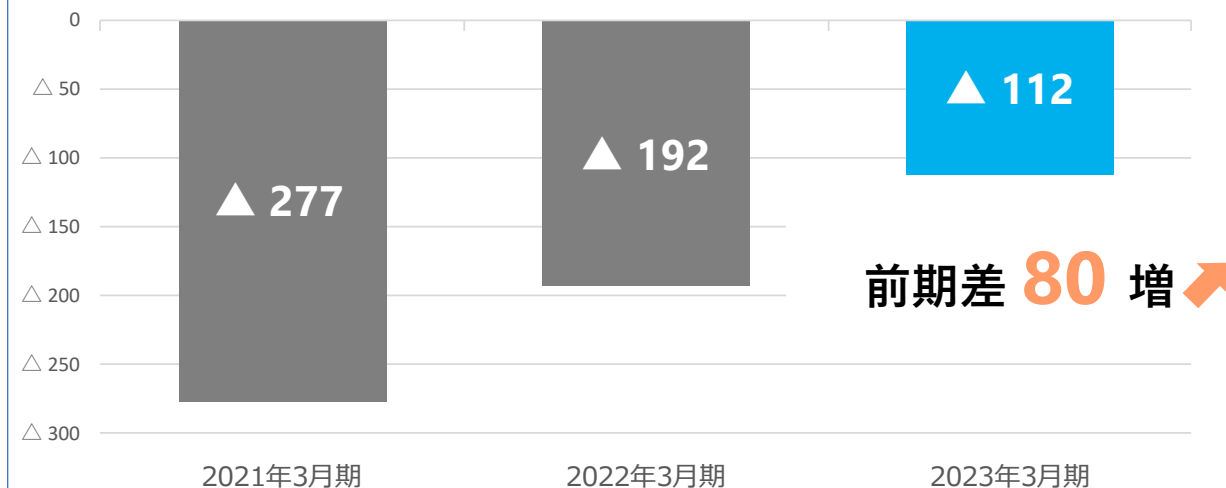
消費者ダイレクト販売の強化、新規ビジネスの開発、加工サービス部門の拡大。

【売上高】



【セグメント利益又は損失（△）】

(百万円)



セグメント実績：洋装事業

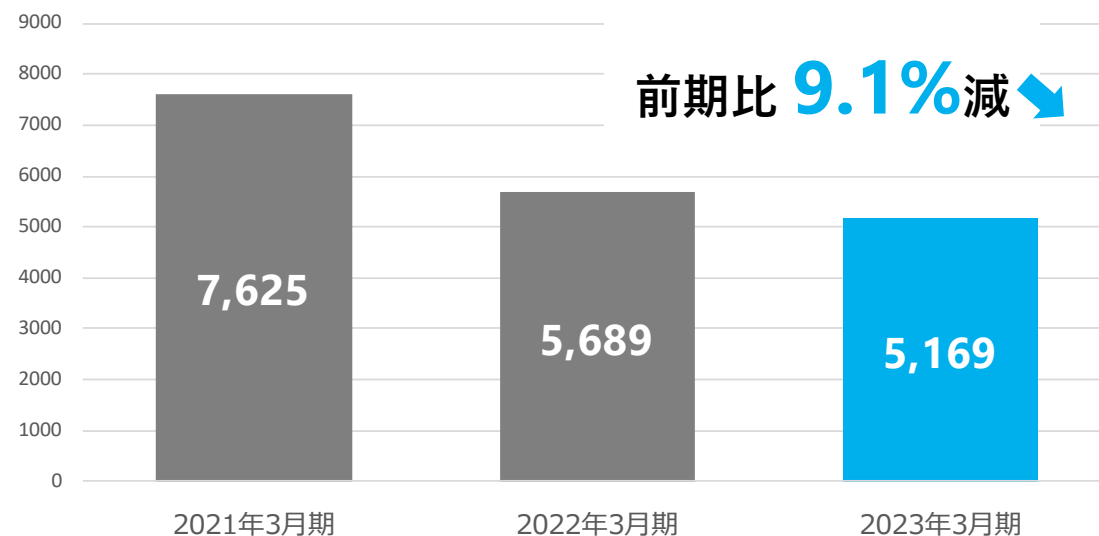
- ▶ アパレル事業は店頭不振の影響による受注額が減少し、減収となった。
- ▶ ユニフォーム事業はユニフォーム商品の大型案件の受注獲得に至らず減収となり、急激な円安と原料価格の高騰により利益率が低下し減益となった。

【対処すべき課題】

アパレル：生産背景の整備、素材開発力・提案力を強化。

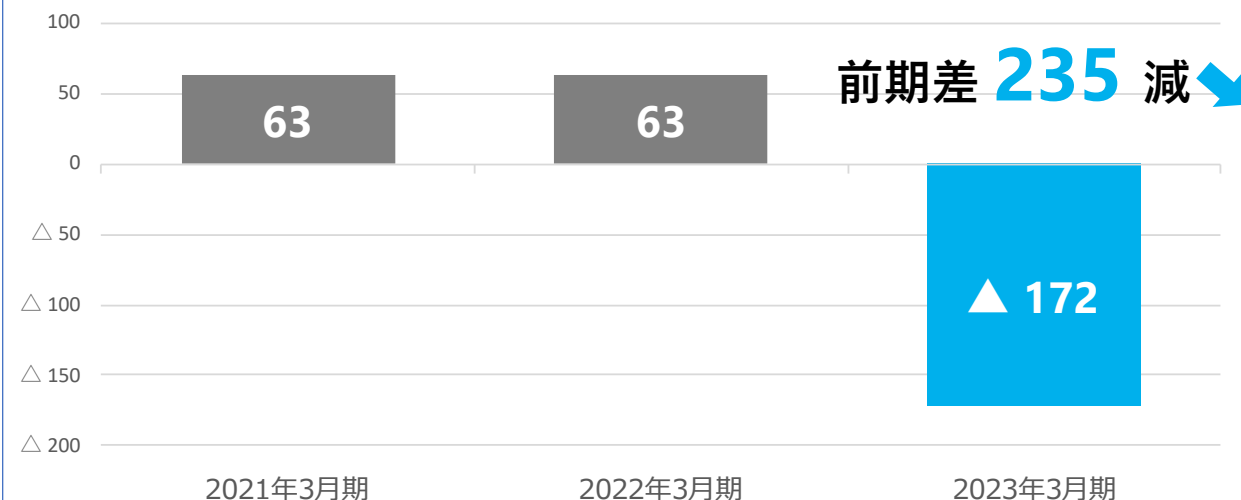
ユニフォーム：直需販売の拡大、レンタルの拡大、新しい商品・サービスの開発を推進。

【売上高】



【セグメント利益又は損失（△）】

(百万円)



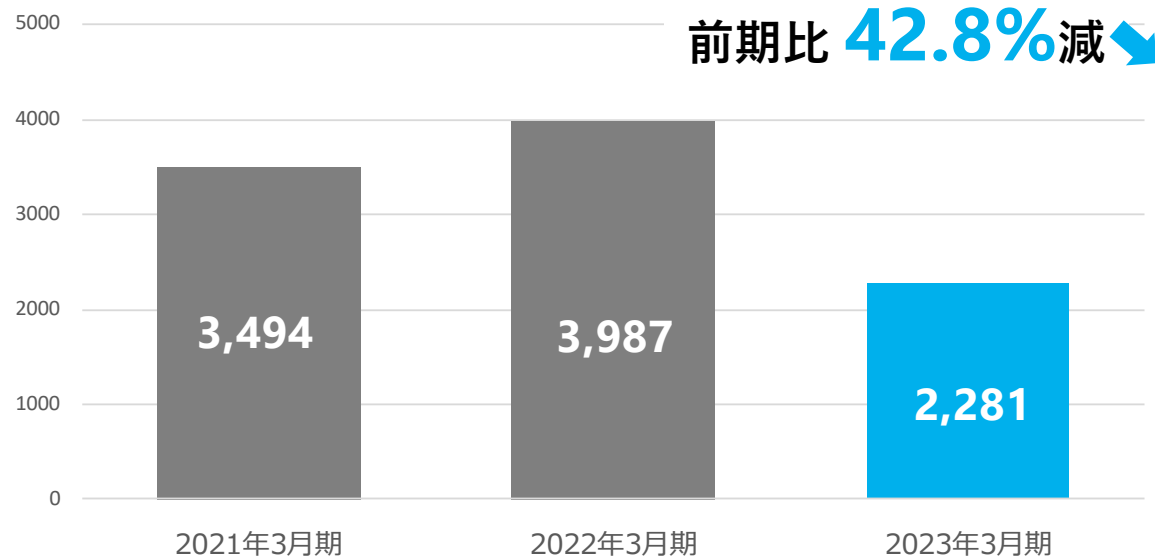
セグメント実績：ホームファニッシング事業

▶ラルフローレンホームコレクションのライセンス契約が終了し、店頭での販売から商品を生産する事業へと変更したことで減収となったが、経費の節減効果もあり、大幅に収益が改善した。

【対処すべき課題】

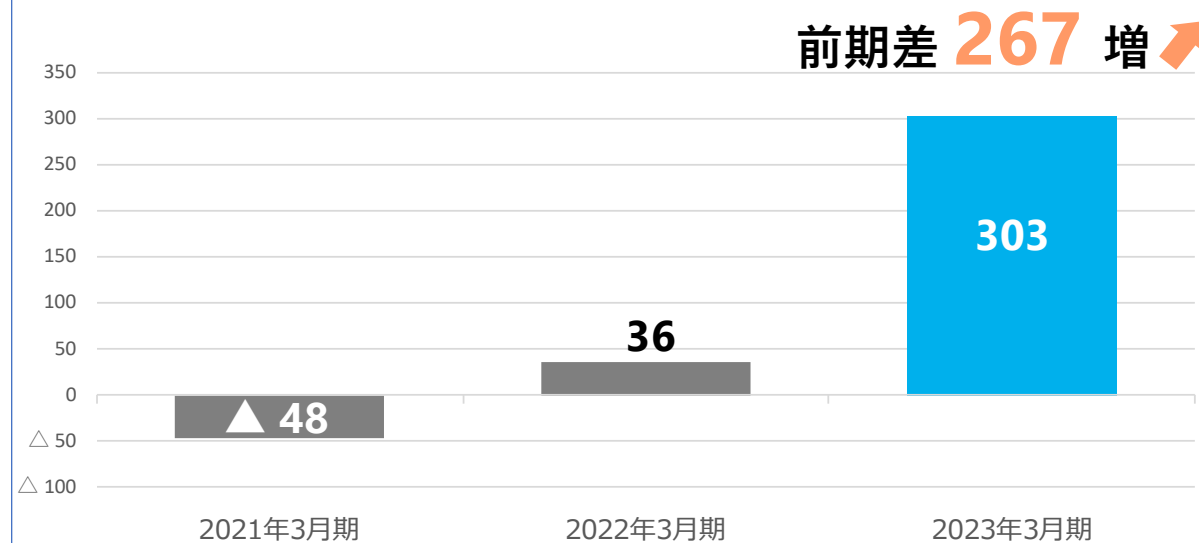
ラルフ ローレン社認定のグローバル・マニュファクチャリング・パートナーとしての製品供給にとどまらず、新規ビジネスの早期確立を目指す。

【売上高】



【セグメント利益又は損失（△）】

(百万円)



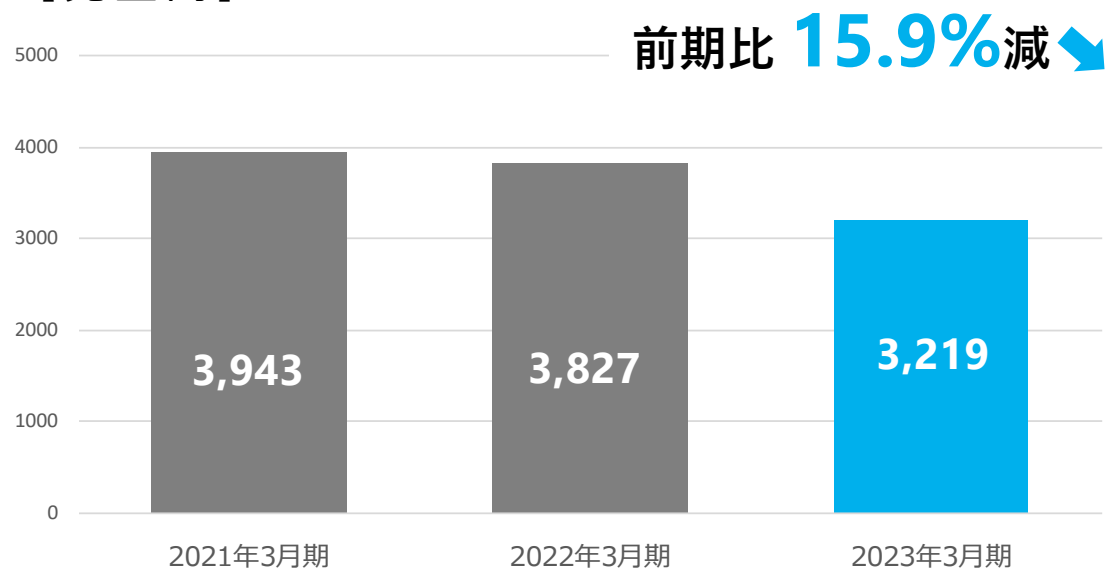
セグメント実績：健康・生活事業

▶ テレビなど通販事業での売上不振の影響で減収となった。急激な円安と原材料の高騰による商品コスト上昇の影響で利益率が低下し、大幅な減益となった。

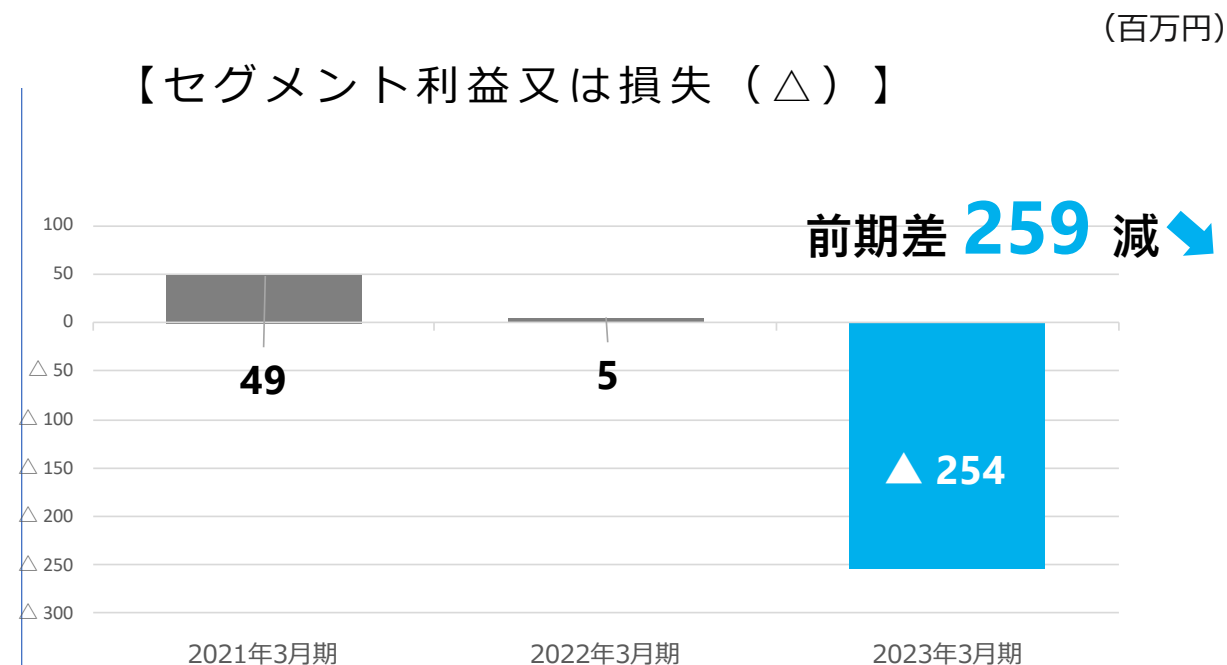
【対処すべき課題】

AiMYブランドの構築と新たな成長事業の創出。
競争優位性の高い商品の開発。

【売上高】

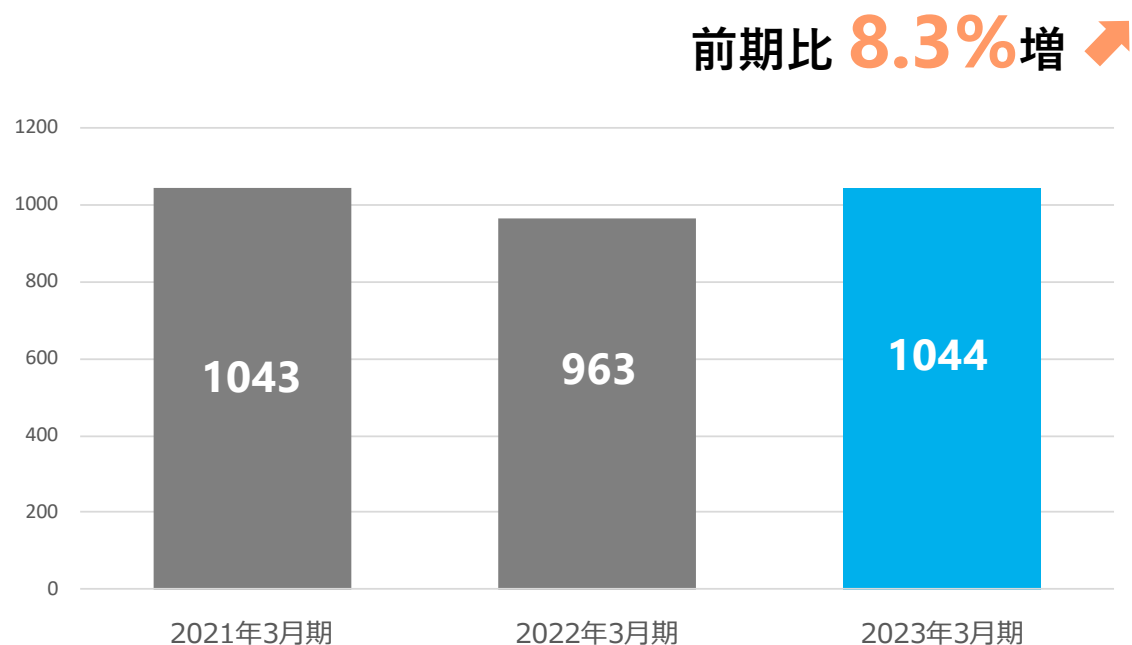


【セグメント利益又は損失（△）】

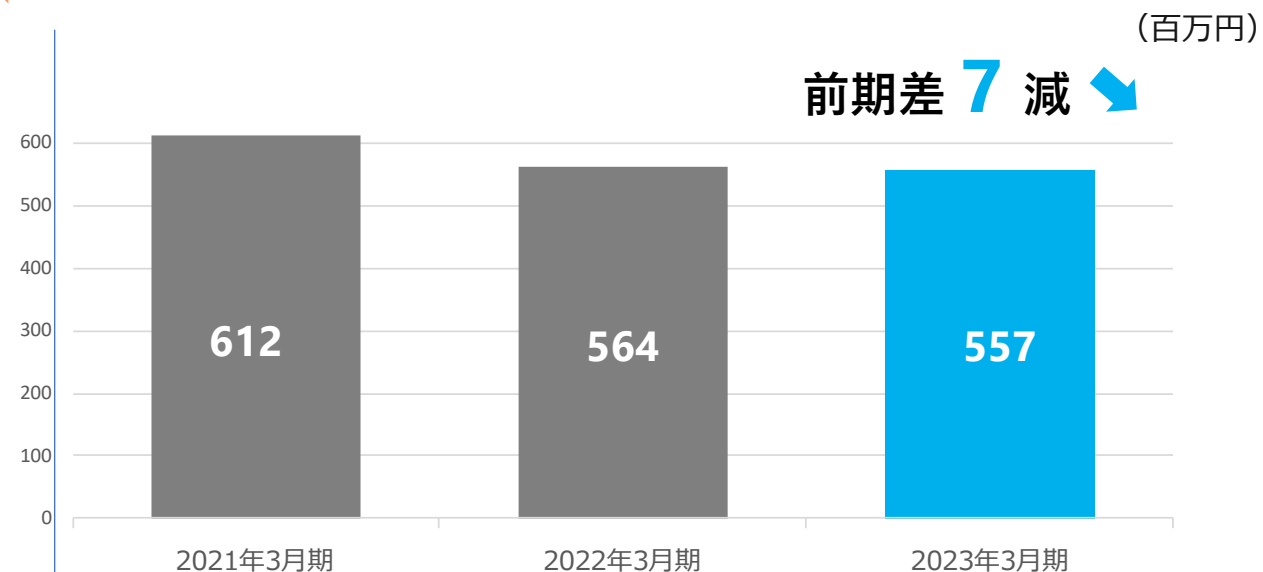


- ▶ 不動産は安定的に稼働し、前年並みに推移。

【売上高】



【セグメント利益又は損失（△）】



1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
- 4. 業績予想**
5. 中期経営計画

(百万円)

	2022年 3月期実績	2023年 3月期実績	2024年3月期 通期予想
売上高	15,658	12,879	12,000
営業利益	229	14	70
経常利益	300	136	150
当期純利益	△ 329	65	120

※ 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

※ 今後の市場動向を踏まえ、修正が必要と判断した場合には速やかに公表いたします。

1. 連結業績ハイライト
2. 連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
- 5. 中期経営計画**

新中期経営計画の骨子

- ▶ 新中期経営計画では「成長と変革に向けての新たな挑戦」を掲げ、既存事業の黒字化と新規事業の立ち上げ、上記事業を支える組織体制を変更し、継続的な株主還元を実施



2022-2024 中期経営計画

成長と変革に向けての新たな挑戦

骨子	1	早期の全営業部門黒字化	・ 攻めと守りのメリハリをきかせて、事業単位を最適化
	2	次世代のツカモトを支える 新規事業の立ち上げ	・ 組織横断の新規事業の探索
	3	営業部門黒字化と新規事業を 支えるための組織再編	・ 中規模事業集約によるスリム化 ・ 新規事業部設立による事業部横断の推進
	4	安定的な株主還元の実現	・ 1株当たり年間配当額30円

次世代のツカモトを支える新規事業の立ち上げ

- ▶ 新規事業部署だけではなく、既存事業部でも新たな取り組みを継続していく

各事業の新規関連の取り組み内容

和装

- ・ 消費者ダイレクト販売の強化
- ・ 加工サービス部門の売上拡大



▲5分で着られるきもの

ユニフォーム

- ・ 新商材の拡大
環境対応事業「リテラ Re Terra」
バッテリー一体型の空調服
- ・ レンタル事業の拡大
調剤薬局へのユニフォームレンタル開始



▲リテラ素材を使用した製品の製造

次世代のツカモトを支える新規事業の立ち上げ

- ▶ 新規事業部署だけではなく、既存事業部でも新たな取り組みを継続していく

各事業の新規関連の取り組み内容

健康・生活 (エイム)

- ・ サウナメーカーHARVIA(ハルビア)社の販売代理店として東京ショールームをオープン
- ・ ウォーターサーバーの法人向けレンタル開始



▲「HARVIA」東京ショールーム



ホーム・ ファッション

- ・ 新ブランド「BIYOMA」の立ち上げ
- ・ Hanes社とライセンス契約締結
ヘインズホームコレクションをスタート



▲新ブランド「BIYOMA」



▲ヘインズホームコレクション

新規事業

- ・ 事業部横断型の新規事業部署の設置



TSUKAMOTO CORPORATION

株式会社ツカモトコーポレーション

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。